

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
小長谷百絵、◎原等子、東條紀子、大倉 由貴、青山拓夢、金井香織			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 後期	【授業時間】 30時間
	【担当教員】 【氏名】 小長谷 百絵 ◎原 等子 東條 紀子 大倉 由貴 青山 拓夢 金井 香織 実務経験のある教員が担当します	【研究室】 213 303 308 共同研究室4 共同研究室4 共同研究室4
【本学の科目区分】 専門科目		
【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 看護師課程		
【D P 1】 ○ 【D P 2】 ◎ 【D P 3】 ○ 【D P 4】 【D P 5】 【D P 6】 【D P 7】		

到達目標	1. 高齢者的心身に生じる加齢変化の成り立ちと生活への影響、その評価方法を理解する。 2. 老年期特有の健康障害の成り立ちと生活への影響を理解する。 3. 生活障害、健康障害に適した看護の方法を自立支援という視点から理解する。 4. 認知症の高齢者、急性期ならびに終末期にある高齢者に対する看護の方法を理解する。 5. 介護家族や高齢者ケアシステムについて理解し、政策的課題に対する関心を深める。
授業概要	老年看護学Ⅰでの「高齢者と高齢社会に対する理解」を踏まえ、加齢変化や老年期特有の生活障害、健康障害の特徴、その解決もしくは生活への影響を最小限にするための看護の方法や政策上の課題について学ぶ。また、高齢者自身とそれを取り巻く家族や社会が経験する困難さを学ぶ。教授陣の実践、研究経験および臨地や臨床など第一線で活躍する多職種のゲストスピーカーによる講義を加えて構成する。
授業計画	1 加齢変化 授業形態：講義 対面 学習課題：高齢者の主な症状および疾患管理① 学習内容：高齢者の特徴 高齢者看護が目指すもの 加齢変化と疾病罹患の特徴 備考： 2 総合機能評価 授業形態：講義 対面 学習課題：高齢者のフィジカルアセスメント① 学習内容：高齢者の総合機能評価と看護 老年症候群（生活不活発病、ロコモティブシンドローム、サルコペニア） 身体各部（皮膚・外皮系、感覚器、循環・呼吸器）の加齢変化、フィジカルアセスメント 備考： 3 身体各部の変化の特徴とケア 授業形態：講義 対面 学習課題：高齢者のフィジカルアセスメント② 学習内容：身体各部（消化・吸収、栄養、口腔、排泄機能）の加齢変化、フィジカルアセスメント 備考： 4 皮膚の変化とケア 授業形態：講義 対面 学習課題：高齢者のフィジカルアセスメント③ 学習内容：高齢者の皮膚の脆弱性のアセスメントと看護 備考：ゲスト（老人CNS） 5 コミュニケーションの変化とケア 授業形態：講義 対面 学習課題：高齢者のフィジカルアセスメント④ 学習内容：失語症・構音障害のある高齢者の看護 備考：ゲスト（ST）

	6	栄養・水分摂取の変化とケア 授業形態：講義 対面 学習課題：高齢者の生活自立支援① 学習内容：摂食・嚥下障害、口腔機能障害のアセスメントと看護 備考：
	7	排泄機能の変化とケア 授業形態：講義 対面 学習課題：高齢者の生活自立支援② 学習内容：排泄機能障害のアセスメントと看護 備考：
	8	活動機能の変化とケア 授業形態：講義 対面 学習課題：高齢者の生活自立支援③ 学習内容：活動耐性低下、運動機能障害のアセスメントと看護 骨粗鬆症、転倒と骨折の予防とケア せん妄ケア 備考：
	9	生活の支援 授業形態：講義 対面 学習課題：高齢者の生活自立支援④ 学習内容：高齢者の生活支援、余暇活動、リハビリテーション、アクティビティケア 備考：ゲスト (PT)
	10	認知症の人と家族への支援 授業形態：講義 対面 学習課題：高齢者と家族への支援① 学習内容：病院・施設・地域における介護家族への支援 認知症の理解と認知症の人への支援（社会への処方含む） 備考：原
	11	介護すること家族の思い 授業形態：講義 対面 学習課題：高齢者と家族への支援② 学習内容：介護家族支援、介護の社会化の課題 備考：ゲスト（当事者）
	12	終末期のケア 授業形態：講義 対面 学習課題：高齢者の終末期における看護 学習内容：高齢者終末期の概念と評価、終末期医療と看護のあり方 備考：
	13-14	ともに考える高齢者への支援 授業形態：グループワーク 対面 学習課題：高齢者の生活自立支援④ 学習内容：高齢者の特徴を踏まえ考える高齢者の看護 備考：原、大倉、東條、青山、金井、小長谷
	15	高齢者看護の実践に向けて 授業形態：グループワークと講義 対面 学習課題：高齢者の生活自立支援⑤ 学習内容：高齢者の特徴を踏まえ考える高齢者の看護 高齢者看護へのレディネス 備考：原、大倉、東條、青山、金井、小長谷
事前・事後学習		事前学習：基礎実習ではユマニチュードを活用できましたか。患者様や看護スタッフ、多職種とのコミュニケーションからの学びはありましたか。病院に入院する多くの患者様は高齢者が多いですが、高齢者の特徴を踏まえた自立支援を行うためには、看護師として「高齢者の持てる力の観察と可能性を信じ待ち見守ること」が重要です。実習での学びを踏まえて、高齢者に対する看護のあり方について調べ、考えてみてください。 事後学習：事前に自己学習した内容とこの科目での学びを合わせて、多様な高齢者に対する看護のあり方について考えてみてください。
評価方法、評価基準		到達目標1~5に対し、試験40%、課題（レポート）60%により学習目標の到達度の総合評価を行う。
必携図書		最新老年看護学第3版、水谷信子監修、日本看護協会出版会、2021.（購入済） 亀井 智子編：根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版、医学書院、2020.
参考図書・資料等		1) 北川公子ほか：系統看護学講座 専門分野II 老年看護学 第10版、医学書院、2025. 2) 山田律子ほか（編）：生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図第4版、医学書院、2020. 3) 日本老年医学会（編）：老年医学テキスト改訂第3版、メジカルピュー社、2008. 4) 迫田綾子編著：誤嚥予防、食事のためのポジショニング POTTプログラム、医学書院、2023. 5) 中島紀恵子編著：認知症の人びとの看護 第4版、医薬出版社、2024. 6) 伊庭崇他編：旅のことば 認知症とともによりよく生きるヒント、丸善出版、2015. 7) 金子智紀他著：ともに生きることば 高齢者向けホームのケアと場づくりのヒント、2022. 他、講義で提示
受講、課題、資料配布等のルール		事前学習用ワークシートおよび各回講義のフィードバックペーパーの提出と記載内容は、課題（レポート）の評価に含まれます。これらのワークシート等の他にレポート課題を課します。
教員からのメッセージ		高齢者ケアの知識整理には他教科との重複が多く、今までの学習との関連を考えながら学習をすすめていきましょう。そしてその中で高齢者看護の特徴、実践方法や課題を考えていきます。高齢者の機能低下ばかりに捉われずできていること、可能性をあきらめずに、未来を見据えた看護を考えていきましょう。
オフィスアワー		